

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

かつて、G・アダムスキーを支持する世界最大のグループでは、アメリカ本部からの助言もあり、彼の小論文である「エゴを支配する道」を最も重要な教えであると認めていました。

本論は、現在、「黄金の門は「勇気と愛」によって開かれる。」という表題で、アダムスキー全集「UFO・人間・宇宙」の中に3, 300文字程度で収められています。

ここでアダムスキーは、エゴを支配する道を進むのは容易ではないと教え、「私の意志ではなく、あなたの（創造主の）意志がなされるのです」と喜んで言えるようになるまでには、人間はたびたび個人的苦痛、肉体人間のエゴと闘わねばならないと語ります。

そして、人間は真理という鏡の中に進んで自身の姿を写してみる必要があるとして、誰もが、自分自身がどの程度の存在かを教えられても、目を背けるか絶望的になると語ります。しかし、心が純粋で、目的が真摯な人は、こうした啓示にしり込みせず、信念により自分の再確立と、愛による自分の純化の必要性を感じるということです。

この鏡の中に、進化のなかで償うべき天罰や野心など多くの醜い部分が現れるけれど、それを認めなくてはならないとしています。その後、自分が以前にエッセンスを入れておいた杯を手にするが、それを飲まない人や苦いと感じる人などは、立ち去るか学び直しが示されます。

一方、その杯を受けるために不屈の勇気と愛の心で前進する人もいて、そのような人には、美しい純金の門が現れ、彼方の美しき閃光を浴びるために立ち止まることを許されます。

上述の「私の意志ではなく、あなたの意志・・・」の言葉を純粋に言える人は、黄金の門のドアを内側に開き進歩して行く道が示されますが、その人でさえ何度も何度も自己の成長が本物であるかを試される試練にさらされることが書かれています。

意味深い内容ですが、見落せないのは、黄金の門へ多くの人が近づけるとということです。それには、過去のエゴによる生活は問題ではありません。試練の時に、宇宙の意識に自らを委ねられれば良いのです。そのためには、日々、宇宙の意識を感じる地道な生活が必要なのです。

“言葉に注目”

< 会見の多くは主として私自身の問題と可能な解決法を扱ったものである >

by アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

G・アダムスキー（GA）は、スペースピープル（SP）との会見において、細かなことは質問せず、人類に寄与する重要な情報を入手していた印象が強いです。これは、確かにそうなのですが、実際の会見においては、GAに直接関係する情報や助言などに多くの時間を割き、しかる後にその他の重要な情報を提供していたことを意味しています。

会見当初のGAは、一般人に比べれば遥かに進歩していましたが、晩年に比べれば、一般の地球人を縛っている様々な束縛に影響を受けていたようです。この解消のためSPよりテレパシーでの支援を受けたのですが、なかなか上手くゆかなかったことが読み取れます。これをGAはレッスンと呼び、習得するにははるかに長い道が横たわっていると語っています。

SPは、GAに関連する問題への直接助言に加え、テレパシーでの支援が可能になるよう意図していたのですが、これは、人類を導く指導者の育成という側面があるからなのでしょう。

「生命の科学」学習のポイントPart4 1

今回は、レクチャー3 宇宙の法則の応用“自然界の指導のもとに帰ること”という部分です。

まず、アダムスキーは、「私が“自然”と呼ぶとき、それは神の母性原理の代表者・・・。一方“至上なる英知”は男性面です。」と定義します。

そして、生命の90%は神の直接指導の法則で支配され、残る10%は人間の部分で、ここが自由意志を使うことによって法則と分離していると書いています。

次に、地球上の最初の間人は、自分を導く教師として自然を利用し、鳥の鳴き声や小川のせせらぎを聞いて、そのような音を作り出したのだと説明します。いわゆる“まね(=学ぶ)”です。現代でも海底や宇宙に進出したがるのは、自然から学びたいからだと言うのです。

しかし、「人間の学習の最も不幸な部分は、エゴが短気であり、エゴ自身を自己の教師すなわち創造主の上位に置こうとする態度にあります。」と重要な問題点を指摘しています。人間は、自己の教師である意識に従わないで、生徒であるべき心に従っているからです。

人間は、いかに多くを学び年齢を重ねても、絶対に自然(母性面)から離れることはできないと諭し、学者のすべては、自然の要素と生命体の生産を探究する、つまり自然界の営みを探究することによって、求めている知識を得ているのだと書いています。

最後に、人間は“英知(男性面)”を表現しているのに、そのように見えない人もいると語ります。これは、人間が知能を分類しているからとしています。このような人を含め、人間は、宇宙の英知の様々な面を、自己の理解力に応じて表現していると言えるのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編41>

“去る者は追わず来る者は拒まず” これは、中国の思想家である孟子の言葉です。自分を信じないで去っていく者は引き止めない、自分を信じて頼って来る者を決して拒まないということです。これは、自分への評価を他人の自由意志に任せるといふ、度量の広さを示しているものです。このような考えは、アダムスキーの生き方にも通じているように思います。



Q:本当に大国はUFO問題を隠しているのでしょうか? ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。
A:このことは、大国と限らず多くの国で行われていることでしょうか。CIAの極秘文書が公開され、UFOを否定していたCIAが、UFOについて多くの資料を集め研究していた事実が知られています。日本も公には認めていませんが、かなりの情報を持っていると思われます。最近でも、米西部ネバダ州の「エリア51」について、CIAの機密文書解除により、正式に存在が認められたという記事が新聞等に掲載されています。

書物紹介

『アペノリスク』 植草一秀著 (株)講談社

著者の植草氏は、以前はテレビにも出ていましたが、時の政権に反する発言をすることから無実の罪で逮捕され、社会的に抹殺されようとした経験があります。この辺は、UFO問題と同様です。本書は、参議院選挙を前に緊急出版されたもので、安倍総理の政策がいかに危険を内包しているかを示したものです。行きつく先は、米・官・業を軸とするもので、国民はそのコマにされる。そして、マスコミもそれに一役買っている点も書かれた気になる一冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

☆ 東京開催☆ 9月14日(土)、11月16日(土)、平成26年1月18日(土)、3月15日(土)。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館(浅草寺社殿の道路東側)8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

アダムスキーの教えによると、人間の進歩はゆっくりであることが分かります。SPも、ゆっくり着実に進歩してきたということでしょう。

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第41号>

発行日 平成25年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキーの著した「生命の科学」が、彼の書物の中で最も重要であることは論を待ちません。「国際アダムスキー普及会」は、そのことを理解しやさやかながらも活動を行っています。

しかし、アダムスキーを支持する人でさえ、このことを良く理解できない場合があります。

「生命の科学」は、スペース・プログラムに基づき伝えられた知識であり、このように文字として残されるものとしては、この2000年間で初めてと言えます。

勿論、過去の偉人は、実践的な行動規範を示すことで同様なことを伝えていたと思われますが、「生命の科学」は、自己の心と意識を区別し、心が四つの感覚器官から作られていること、肉体の中にも宇宙的な細胞と悪魔的細胞（習慣細胞の増殖）があることなど、地球人には知り得ない秘密が具体的に綴られています。

この内容は、人類が長年にわたり求めていた、「万病の薬」、「不老不死」、「永遠の平和」などを獲得する手段でもあります。この事実をまず、理解する必要があると思います。それが、アダムスキーを介して、地球人に伝えられたということです。

それを生かすためには、何と云っても「生命の科学」を真に理解するための読み解く能力を培う必要があると思われます。これには、いくつかの心の準備や持ち方が必要となりますので、「生命の科学 学習のポイント!」としてまとめ、一時、学習会会場でも配布したほか、現在ではホームページにも掲載しています。

このエッセンスは、まず自身が純粋な心でもって、アダムスキーが伝えた「生命の科学」を完全に信じきることです。そして、アダムスキーは、「何を伝えたいのか?」という思いで、彼が生きていた当時の印象を感じる様な気持で、ゆっくりと文章を読んでゆくことです。

本書は、原文が英語のため誤訳や分かりにくい訳もあると思われます。しかし、そのことを危惧する方が、「生命の科学」の真の理解の妨げになる場合が多いと考えています。

「言葉に注目」

< 他の惑星から来てわたしたち地球人のなかで生活しておられる人たち... >

by アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが金星の母船に乗船した際、アダムスキーが質問したものです。ここで彼は、このようなことが長く行われてきたのかと聞きました。これにカルナ（金星の女性）が、「過去2千年間はずついています。地球人を助けるためにあなたの世界で生まれ変わるように送られてきたイエスのはりつけ以後、地球で生まれ変わるよりも関係者にもっと危険の少ない方法で使命を遂行するようにきめたのです。」と答えています。

さらに、「私たちは7800万年にさかのぼる地球の歴史を知っています。」と語っています。これほど長い歴史を知っているというのは、地球救済のために多くの人々が地球上に生まれて来たということや、その活動にカルナ自身も関わっていたことを思わせます。

このことは、スペース・プログラムの具体的な始まりの時期を感じさせるとともに、他の惑星からの移住の時を伝えているとも考えられます。

「生命の科学」学習のポイントPart42

今回は、レクチャー3 宇宙の法則の応用“偉大なバーバンクのテレパシー”という項目です。

初めに、「あらゆる自然物はさまざまな度合いに英知を表現しています。」として、砂一粒でも自己の目的を表現し、堅い土から出る草の葉は英知に従って発芽すると記します。また、リンゴ等の果実が、どのようにして成熟するのか意識にしか分からないと書いています。

アメリカの植物改良家のルーザー・バーバンクは、「自然が私に植物改良の知識を与えてくれた」と語り、「創造主とともに働き、創造物を通じて創造主と直面した」と語ったことから教会から非難されたということです。しかし、ア氏はこれを肯定し、「人間は真の教師すなわち万物の意識の指導のもとへ帰るまでは、・・・骨折り仕事や・・・混乱などから絶対に解放されません。」としています。

ア氏によれば、バーバンクのようにするには、祈りやマントラや瞑想ではなく、心という結果に頼らないで、心で気づくかわりに心が心自体に気づいたように、心が意識に気づくようになることであると言います。これを金星人等は実行し、創造主に直面しているということです。

この辺は、様々な言い方で繰り返えされている部分です。しかし、なかなか地球人には理解できません。通常、現在の自分は、心を中心に思考していると理解する必要があります。思考とは、そもそも脳を中心にした心の動きなのです。哲学者や思想家なども総てそうです。しかしその軸足を、“心”ではなく“意識”からの印象へと転換していくことが必要なのです。この行為は、宇宙的視点や原因探求の視点を意識することから近づいていけると思われます。

宇宙に“生きる”

<名言格言編42>

“悪貨は良貨を駆逐する” これは16世紀、イギリスの財政家グレシャムが唱えた経済法則です。同一市場で、素材価値の異なる2つ以上の貨幣が流通すると、良い貨幣は、貯蔵、鋳つぶし、国外流出などによって市場から姿を消し、悪化だけが市場に残る現象。このことを悪人がはびこる世界で、善人が不遇であることに例えられます。正に現代社会に通じるようです。



Q:「生命の科学」を生かすと何が変わる? ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A:「生命の科学」を学んでも、何も変化を感じないと言う人がいます。しかし、自己の変化に敏感になれる程度に学んでいる人は、自己の中の変化に気づくのです。このような人は、身の回りの変化や社会の変化、自然現象等の変化にも敏感になり運もよくなります。肉体が急に若返ったり、病気にならないと言うほどではないにしても、大病を免れ日々生き生きとして、充実した日々を過ごすことでしょ。

書物紹介

『悪法!! 「大麻取締法」の真実』 船井幸雄著 (株)ビジネス社

船井氏が、「大麻取締法」は悪法であるとするのは、他の様々な法律と照らしても処罰に相当する根拠が乏しい法律であるからです。しかし、調べていくと運用によっては、石油に代わる製品として30兆円の経済効果が見込める“金の卵”ということです。この法律は、戦後すぐにGHQ(連合軍最高司令部)が、日本と日本人を骨抜きにするために押し付けた3大政策の一つであるとしています。私の住む鹿沼市は、麻の収穫量が日本一であり興味ある1冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

☆ 東京開催☆ 11月16日(土)、平成26年1月18日(土)、3月15日(土)。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館(浅草寺社殿の道路東側)8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。※26年度は改修工事のため開催中止!

【編集後記】

世界は、益々良くない方向へ動いているようです。それが分かる様な世界となってきました。災害も増えています。油断することなかれ!

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第42号>

発行日 平成25年11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語



世界の現状を皆さんはどのように見ているでしょうか？
人間の精神性を高める様な世界になってきているのでしょうか？
それとも、真逆な世界となってきたのでしょうか？
あるいは、そのどちらでもないのか？

この世界を見る限り、露骨にかつ強引に、人間のエゴに基づく貪欲な行為が行われていると感じています。これは国家間であり、ある種の組織的行為であるわけですが、このような状況から、人々は真偽が見えなくなり、何のために生きているのかさえ忘れ、自己の真の姿を見失ってきたようです。正に、選民をも惑わす世界となって来ました。

このようなことから、時が来たと判断し国際アダムスキー普及会の活動についても、もう少し踏み込んだ実践的なものにしていく必要があると考えています。

そこで、宿泊しながら「生命の科学」の学習や、アダムスキーについての情報交換、あるいは将来へ向けての夢などを語る場所を建設することとしました。これは、アダムスキーの「生命の科学学園」構想に近付けるべく具現化するものです。

アダムスキーが残した最大の宝である「生命の科学」は、実践が難しいといわれています。それは、効果が見えにくいためだと考えています。実際には、様々な変化が起こっているのですが、自己が短気なために理解に至らないのです。

これらのことから、「生命の科学」の深遠な理解や実践に結びつけるためのきっかけ作り、更には、「生命の科学」の普及を志向する人々、つまり指導者の育成も行うため「宇宙哲学塾」"アダムスキー・コスミック・アカデミー（ACA）"を開校するものです。

これはあくまで、個人の別荘との形態で建設し実行するものですが、本舎を本部として、周囲に研修棟などができることを期待しているものです。

“言葉に注目”

<人間は電気エネルギーのあらわれ>

by アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが、本書の「進歩した思索家のために」と題する講演の中の質疑応答で語ったものです。「光は電気エネルギーの別なあらわれにすぎません。万物はすべてそうです。人間もそうなのです。人間も電気エネルギーのあらわれの一例です。」と語り、「人間の脳の中だけでも140億個の微小な細胞がありますが・・・これらは・・・作動する電気のユニットに似ています。・・・電気とは万物の生命の根源であり、したがってそれは“活動している神”だともいえます。・・・人間の場合、脳細胞がもっと多くの電気を取り入れることが可能になるように発達できるのです。これが真の発達です。」と言っています。そして、「これは、人間が避けることのできない絶対的な法則です。」と続けています。

アダムスキーは、人間が、電気の正体について分かっていないと言っていますので、単純に考えられないころがありますが、どうやら人間の想念さえ電気の種類と解釈できそうです。

「生命の科学」学習のポイントPart43

今回から、レクチャー4「万物の相互関係」に入ります。ここは、新たな項目への導入としての説明となっているようです。

まず、人間に対して役立っている多くの領域について扱うとし、その領域のどれが無くとも“宇宙の計画”は完成されないと言っています。つまり、あらゆる領域は、人間にとって必要なのだと言うわけです。

そして人間が、「自分自身に関連する生命界のあらゆる面を理解することは、英知の最高表現としての人間の義務です。」と語っています。この“自分自身に関連する”という部分は、解釈が難しいところです。単純に生命界のあらゆる面とうことではなく、自分自身に関連するという前提があります。これは、自己の存在目的や前世などとも関連するところでしょう。

次に、分析として、人間には無のように思われる不可視なガス類についての説明になります。様々な種類のガスは、融合したり分離したりしながら固型化した多くの個体が生じます。その緩慢な最初の段階では、液状となって一つの化学元素は他の元素と化合して、元の状態とは異なる様相を呈すると言います。

そして、極端な熱と極端な冷気とその中間など数多くの変化が起こり、ある種のガスは燃焼を起こし凝固が発生し、こうして、われわれが知っている物質を生み出していくようです。

この辺は、地球人が知り得ないところのようですが、宇宙における物質の誕生について、次項以降へ向けての基本的な解説であり大変重要な部分となっています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編43>

“明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい！”

これは、死を宣告され、残された時間を精いっぱい生きた無名の人の言葉のようです。しかし、賢人の教えと同じように大変含蓄のある言葉だと思います。これは、正に真実の生き方だと思います。しかし、なかなか実践できない事実は、人間の未熟さを教えてくれるようです。



Q：アダムスキーを肯定する根拠は？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーが1952年11月20日、オーソン（仮名：金星人）と会見した際の6人の目撃証人、同年12月13日パロマーガーデンズに飛来した円盤の写真と飛び去る際にベーカー退役軍人が写した写真、米国高官ストレイス氏からの会見を証明する文書、ローマ法王ヨハネ23世の謁見と特殊な金貨の贈呈など当時の証拠。何よりも生命の科学の真実。更に現在、オバマ大統領がケネディ同様、異星人の存在を肯定するなど無数にあります。

書物紹介

『日本精神の復活』 日下 公人 著 (株)PHP研究所

著者は、日本経済の名ナビゲーターとして活躍されている一方、本書のようなものの見方や考え方を知らせるような本も書いています。本書は、「マスコミや大学には倒壊の危機が迫ってきた」と感じた著者が、日本人の特殊性やその素晴らしさ、真の実力について同胞に伝えているものです。また、安倍総理を高く評価し、将来の日本に期待する内容となっています。安倍総理については、当然ながら賛否両論がありますが、様々な点で参考になる一冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成26年1月18日（土）、3月15日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。 ※26年度は改修工事のため開催中止！

【編集後記】

宇宙哲学塾は、当分の間、単発的な開校を目指しています。受講の詳細は、新年度の春頃、お伝えできる予定です。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第43号>

発行日 平成26年1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

私たち人類は、何のために創造されたのでしょうか？ そして、何のために生きているのでしょうか？

これは、人類の永遠の課題とされ、人の目的についての考察となって哲学の分野とされていますが、残念ながら地球上の哲学においては、多様な考え方が認められる世界にあって、人間の目的あるいは存在理由についての考え方は確立されていません。

人類が何のために創造され、何のために生きているのかが分からないというのは、あまりにも不思議な話であり、自分が誰でどこにいるのかを知らないに等しい状況です。

通常、自分が誰であるかを認識できず、どこにいるかも認識できなくなることを認知症といって高齢者に多い症状です。しかし人類は、あたかも認知症になったかのように、このことが理解できないようです。

人間は、自分が創造された目的や、自己が何のために生きているのかを知らないがために、そのことを理解するために生きていると考えがちです。もちろん、そのような段階の人も多数いることでしょう。しかし、本来人間は、自己が創造された目的や自己の役割を幼少のころに認識してから、人生を歩んでゆくというのが本来の生き方なのだと思います。

これを「目覚め」とか「悟り」と言うかも知れませんが、本来は、それ以降の生き方が人間としての生き方なのだと思います。こうなれば、少なくとも犯罪は起こさないでしょう。

これを肯定した場合、地球上においては、人間としての歩みを行う以前の人々が多いということになります。恐らく、そのような人は、少なくとも9割以上の割合となるでしょう。

人類が創造された目的は、創造主を補佐し素晴らしい宇宙を感じながら、それを謳歌することにあります。このことをベースにしながら、個人の目的は、過去に人間として生きて来たカルマの解消もあるわけです。このようなことを理解したうえで、人は、少なくとも人類の目的を理解できるまでに「目覚め」そして、謙虚に生きて行かなくてはならないと感じています。

「言葉に注目」

<他の世界の生命の目的は基本的には地球人のそれと同じです>

by アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが、金星の母船に乗船した際、金星の指導者から伝えられた事柄です。本文では、この後に「あらゆる人類の天性として・・・高度なものにたいして昇華しようという憧れがあります。」と語り、続いて「地球の学校制度はある意味で宇宙の生命の進化の過程にならっています。」と説明します。

タイトルとした文章は、本質的なことを言っているのであって、一般的な地球人の生きがいというものとは異なります。地球人の生きがいは、個人的なエゴに基づいているからです。

「高度なものにたいして昇華しようとする憧れ・・・」、これを天性だと言っているのですが、このことを理解できなければ、彼らの生命の目的が理解できないでしょう。彼らの生命の目的は、宇宙における高度なものを感じ自ら昇華していくことで、創造主を助け、宇宙の完成に寄与していくということです。地球人も、同じ目的を持っていると言っているのです。

「生命の科学」学習のポイントPart44

レクチャー4 「万物の相互関係」の2回目、「物質の出生地は空間、ということなのです。」

「ひとたび液状が固まり始めると、液状そのものはガスの場合と同様に消滅します。」とし、その好例として、「・・・美しく晴れた空をながめる場合、ただ空が見えるだけです。しかし自分と空とのあいだには酸素、水素などの目に見えないいくつもの元素があることをわれわれは知っています」。そしてそれが、雲を生じた元の状態に帰って、まったく見えなくなります。さらに活動を減じると雨になると説明し、これは、二度目の活動領域ということなのです。

続いて、「土の分子すべては芽や種子ばかりでなく、無機物も生み出す可能性のある種々のガスで成り立っています。」として、条件が与えられれば、それ以外のものも生み出すことが可能だと言います。つまり、土の分子から種子や様々な無機物を生み出すというのです。

その後、活動が存在するところには、エネルギーが存在するとして、雲の形成と静電気、閃光と爆発について説明します。こうして雷光を生じますが、そこには地上で知られる無機物の総てを含むということなのです。こうして、空間は各種の元素から成っている証拠としています。

「あらゆるガス類はいくども周期を繰り返して行く可能性を帯びています。」として、自然界の万物は、この繰り返しをやっていると説明します。

以上のようなことから、宇宙の創造当時から空間には各種の元素が存在し、それは、ガス体から液体、あるいは固体へと変化をし、固体は、発生と消滅を繰り返しているということが分かります。このようなことから、正しく「物質の出生地は空間、」と言えるわけです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編44>

“張り子の虎”

張り子で作った虎は、見たところ偉そうだが、しょせんおもちゃであるので怖くもなんともない。しかも、首を振っていることから、実際は、実力も無く強くないのに虚勢を張る一方、自分より偉い人にぺこぺこしている様を言うものです。こうは、なりたくないものです。



Q：アダムスキーは、なぜコンタクトできた？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーは、1952年11月20日のオーソン（仮名：金星人）と会見以来、SPとコンタクトしてきたと言われていたのですが、実は、幼少のころからコンタクトしていました。これが可能であったのは、彼がSPとして遥か昔から地球に関わっていたからであり、そのようなカルマを持っていたからだと思います。彼のコンタクトは、偶然ではなく遥か昔からの計画であり、現在もなおスペース・プログラムとして関わり続けていると考えています。

書物紹介

『アダムスキーの謎とUFOコンタクティ』益子祐司 著（株）学研パブリッシング

著者は、アダムスキー関連著書のほか、コンタクティについての著書や翻訳本などがあります。本書は、アダムスキーと行動を共にしたデズモンド・レスリーや高弟でもあったキャロル・A・ハニーとの交流により、かつて聞いたことのない話なども盛り込まれています。アダムスキーの体験を軸にしながら、他のコンタクトストーリーも紹介されています。玉石混合の部分がありますが、アダムスキー部分については大変参考になる書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成26年3月15日（土）、台東区民会館。5月から会場が変更となります。5月24日（土）、7月12日（土）は、府中グリーンプラザ（宇宙を知る会等の名称で予約）。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

地球上で、仕事や地域等で活躍しながら、アダムスキー普及活動を推進するのは至難の技です。しかし、今後も精進することとしましょう。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第44号>

発行日 平成26年3月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

“あなたの魂の輝きが宇宙の意識の輝きである、・・・ふと、そんなことが頭に浮かびました。真っ白な画用紙を宇宙の意識と考え、その一角に○（丸）を書いて有限な宇宙を表し、その中に更に小さな○を書いて人間などの魂を表現する。そんな過程で浮かんだ言葉です。

アダムスキー著「生命の科学」では、人間について魂という表現は出てきません。あくまでも、意識、あるいは宇宙の意識と表現されています。彼の他の著述集である「UFO・人間・宇宙」（中央アート出版社）等の中では、魂という表現が存在します。

人間を指して言うところの魂と、宇宙の意識とは何がどう違うのでしょうか？

宇宙の意識は、宇宙より広大で形を持ちませんが、宇宙を生み出した生命そのものであり、確実に存在しているというものです。人間の魂は、確かに宇宙の意識が生み出したものであり、分け御霊とも言えるものですが、宇宙の意識と同じものではなく、宇宙の中で、経験を積むことによって成長し、意識の具現化に寄与するという仕組みを課せられているものです。

宇宙の意識は、宇宙を生み出した親であり、すべてを知っている存在ですが、一方魂は、宇宙という物質の中で、肉体を伴って学習するものであり、その一瞬一瞬は、常に初めての体験です。この瞬間は、宇宙の意識も共に体験しているもので、宇宙の意識もその体験から学んでいると同時に、人間の魂はこうした経験を積むことによって“知るもの”になっていく存在なのです。

言い方を変えれば、広大なすべてのすべてに宇宙の意識が存在し、その中の一角に私たちの宇宙が存在している。その中に、いずれは宇宙の意識と完全に融合するはずの、地球上では固有の意識体として、輪廻転生を繰り返す人間の魂も存在するということです。

個として存在する魂の根底は、宇宙の意識をベースとしており、言わば宇宙の意識と不可分であるために、アダムスキーは魂とはあまり言わないわけです。また、根底が一緒なため人と人をはじめ生物間の精神感応や、基本的な粒子単位としての原子との交信なども可能になるものと思われれます。このように考えると、冒頭の言葉の意味がよく分かるのではないのでしょうか。

“言葉に注目”

<意志の力はこの目的のためにのみ与えられたからだ>

by アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

これは、「肉体の意識の変換」という章で書かれているものです。表題の意味するところは、「自分の知的意識を今より“父の意志”に強制的に従わせること・・・」であるとアダムスキーは言っています。意志の力をそのように使うならば、我々の生命はその力を反映するようになるということです。これは、生命本来の力が人間を通じて表れてくることを意味します。

その理由として、我々が、苦痛を伴うとそれは顔に表れますが、それと同じように我々が感じる善は、我々の生命の中に反映するのだということです。

アダムスキーは、「より高い意識に導いてもらうことによってこそ、われわれは諸状態を制御することが可能となる。」と語り、「より高い想念に支配されることによってこそ正しい接触が導かれ、万物が善であるという認識に到達するのである。」としています。つまり、意志の力を用いて、自らを宇宙の意識に従わせることが、万物が善であるとの認識に至るということです。

「生命の科学」学習のポイントPart45

レクチャー4 「万物の相互関係」の3回目、「人間は宇宙の英知に従わない」という部分。

まず、「創造の根本的な力である“因”すなわち目的は不変です。」と書いて、因は目的と同じであり根本的な力である言っています。これと対比して、「“原因の結果”は変わりやすく無常」としています。結果である物質は、「波動や速度または振動に支配されていて、変化しなげたらえず新しい結果を生み出します。」として、結果が新しい結果を生み出し、それが他と密接に関係しながら変化していることを伝えています。この辺も、看過できない部分です。

続いて、先に書いた“結果”をガス類と表現し、それがどこから出てきて、化合する場合の吸引と反発はだれが決めたのかと書いています。そして、ある種の英知が現象の背後の指令者であったと述べています。続いて、万物を支配する宇宙の法則ばかりでなく、全体的な宇宙の英知が存在している書き、この英知は、形態というものを必要としないで、万物の背後に具現化していることから、物質的なことを支配する宇宙の法則よりも、根源に近い存在である事を知らせています。そして、「ガスや無機物の領域を通じて万物はこの英知に従っているのですが、人間だけは別です。」と書いています。

また、宇宙の英知に従っているものすべては、存在することができるのだと語り、それらは宇宙の目的を遂行するために、常に高次元表現の状態にされているのだと書いています。人間は、エゴの心によって文明を消失するのだと語り、決して消滅しないのは宇宙の意識と材料（原子等）だとし、人体を構成する材料が意識に従うために進化していくのだと語っています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編45>

“ 子を持って知る親の恩 ”

自分が親となり、子供を育てる苦勞を知ってはじめて、親の愛情の深さやありがたさを身に染みてわかり、親の恩をしみじみと感じるようになるという意味です。これは、正に私も経験的にうなずける言葉の一つです。子供を持たない方々も、想像できるのではないのでしょうか。



Q：グレイ系の宇宙人は存在するの？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：少なくともアダムスキーは、そのことには言及していません。半世紀以上前から、信頼されるコンタクトのいくつかで、グレイ系の異星人とのコンタクトが報じられています。広大な宇宙を想像すれば、ロボットばかりではなく、この種の異星人の存在が完全に否定できません。ただし、今日報道されているものの多くは、意図的にその種の異星人の話が多いと感じます。私は、地球人と容姿の異なるグレイ系より、地球人と類似する異星人に興味を持つものです。

書物紹介

『帝国の逆襲 金とドル最後の戦い』 副島 隆彦 著 祥伝社

副島氏によれば、帝国とはアメリカ合衆国のことで、今のアメリカは、金融・財政面で自分が生き残ることに必死であり、すでにお金のないアメリカは、世界中の国々を自分のために食いものにし、自分が生き残るためだったら何でもするという。彼によれば、2015年にヨーロッパで金融危機が起こり、その後、アメリカも危なくなるということです。アメリカの経済危機は、20年も前から識者が伝えていますが、どうも本当に危ない時代が来たようです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 平成26年5月18日（日）は、市民会館ルミエール府中の第4会議室。7月12日（土）、9月6日（土）、11月8日（土）は、府中グリーンプラザ（宇宙を知る会等の名称で予約）。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

世界は、真実よりも虚偽の方が多いかも知れません。真実を見抜く目と、真実に生き抜く力を「生命の科学」で磨く必要があるようです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第45号>

発行日 平成26年5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）